

日本建築学会設計競技優秀作品集

2006「近代産業を生かしたブラウンフィールドの再生」



「ブラウンフィールド」を再生させることを求めるのが、この設計競技のテーマである。実例としては、ドイツのルール地方の再生を図った1990年代のIBAエムシャールパーク、英国の窯業地帯を主題にしたポタリーズ・シンクベルト計画などが思い浮かぶ。土壌汚染の土地を「桜の園」にしてしまおうと試みる建築家もいる。そもそも日本のブラウンフィールドとは何なのか。応募案には産業廃棄物やゴミをテーマにしたもの、工場の跡をテーマにしたもの、巨大煙突を再生する計画、戦闘機の掩体壕を博物館にするもの、都市のなかの小さな自然や自転車を主題にしたものなどもあり、ブラウンフィールドの概念解釈の多様性が面白かった。各案ともに工夫と発見があり、日本の各地に残る産業や都市の遺産の問題を考えさせられる。

審査委員長 鈴木博之（東京大学大学院教授）

審査委員 井上容子（奈良女子大学教授） 栗生 明（千葉大学教授） 佐々木睦朗（法政大学教授） 佐々木葉二（京都造形芸術大学教授） 手塚貴晴（武蔵工業大学助教授） 笠 覚暁（金沢工業大学教授） 当麻茂尚（清水建設設計本部副本部長） 早草睦恵（セルスペース代表取締役） 堀 賀貴（九州大学大学院教授）

定価1,995円（本体1,900円）建築学会会員特価 1,796円
判型/頁数 A4判/101頁（一部カラー）

2005「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」



生活機能は驚くほど便利に、食生活にしても豊かになってきてはいるが、一方、具体的な私達の生きる場所は、均質化し、ますます味気ないものになってきている。風景といった一番経済的価値から遠いものは脇に置いて、20世紀後半の日本は、経済優先で走り続けてきた。21世紀を迎えた現在、我々が目にする、街の風景、緑の風景、水辺の風景そして、資源の浪費や廃棄物の問題、それら科学・工業技術オンリーの物質文明、また、マーケット優先の消費的な社会の発展が惹き起こした問題を振り返りながら、新たな風景が目の前にまざまざと具体的な姿で、まず応募者自身の心のなかに浮かんできたかどうか、またその固有の佇まいが図面をとおして他者に伝達され、共通感覚（コモンセンス）を揺り動かすまでに至ったかどうか問われた。

審査委員長 富永 讓（法政大学教授／富永讓・フォルムシステム設計研究所）

審査委員 大谷英人（高知工科大学教授） 佐々木睦朗（法政大学教授） 彦坂満洲男（郷設計研究所主宰） 内藤和彦（中部大学教授） 平倉章二（久米設計取締役副社長） 前田忠直（京都大学大学院教授） 安田幸一（東京工業大学大学院助教授） 米田浩志（北海学園大学教授）

定価2,205円（本体2,100円）建築学会会員特価 1,985円
判型/頁数 A4判/98頁（一部カラー）

2004「建築の転生・都市の転生」



今や日本全国いたるところ、市街地でも農山地でも、いわゆる「空き家」や放置された風景がある。現代の危機の一断面を鮮やかに象徴しているように思われる。

わたしたちはこのような現象に対して、その奥にあるであろう大きな困難の前に、右往左往したり、ただ嘆きだけではなく、「建築の転生・都市の転生」というテーマのもとに捉え直すことによって、果敢に立ち向かってみたい!というのが本設計競技の目論見であった。

審査委員長 中川 武（早稲田大学教授）

審査委員 今村雅樹（日本大学助教授） 小川晋一（小川晋一都市建築設計事務所/近畿大学教授） 小泉雅生（東京都立大学助教授） 小林英嗣（北海道大学教授） 櫻井 潔（日建設計常務取締役東京副代表） 宿谷昌則（武蔵工業大学教授） 針生承一（針生承一建築研究所主宰） 西村征一郎（京都工芸繊維大学教授） 三谷 徹（千葉大学助教授） 村山邦彦（都市再生機構業務企画部部長）

定価2,310円（本体2,200円）建築学会会員特価 2,079円
判型/頁数 A4判/114頁（一部カラー）

2003「みち」

定価2,205円（本体2,100円）建築学会会員特価1,985円 判型/頁数 A4判/94頁（一部カラー）

—各巻好評発売中—